

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	保健体育課長 佐藤 正範	電話番号	0852-22-5722
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	競技スポーツ普及強化推進事業		
目的	(1) 対象	国体や全国高校総体等の全国レベルで活躍が期待される選手	
	(2) 意図	競技力の向上を図り、全国規模の大会で活躍する選手の育成・強化を行い、競技スポーツの普及・推進を図る	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・競技力の向上を図るため、国体候補選手の県外遠征、強豪チームの招請合宿、強化練習会の実施について支援する。 ・ジュニアの競技力向上を図るため、中学校指定競技の県外遠征、高校重点校指定競技の県外遠征や強豪校の招請合宿、オリンピック女子候補競技の県外遠征の実施について支援する。 ・オリンピックをはじめとする国際大会で活躍する選手を育成するため、全国規模の大会で活躍している選手の県外遠征の実施について支援する。 ・選手個人の能力の十分な発揮、指導力の向上を図るため、小・中・高校生等を対象に栄養面・身体面・メンタル面でのサポートを行い、競技力のさらなる向上を図る。 ・地域一体となり、練習会、講習会、フェスティバル等を開催することにより、競技力の向上と普及を図るとともに競技人材を育成する。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 入賞種目数（成年）	目標値		16.0	16.0	16.0	16.0	種目数
		取組目標値						
	式・定義 国民体育大会（成年）において入賞した種目数	実績値	7.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名 入賞種目数（少年）	目標値		55.0	56.0	56.0	57.0	種目数
		取組目標値						
	式・定義 国体（少年）・全国中学校総合体育大会・全国高等学校総合体育大会等に出場した学校・選手の入賞した種目数	実績値	58.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	156,467	158,136
うち一般財源 (千円)	156,088	157,699

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

<ul style="list-style-type: none"> ・国体における入賞種目数は、H26年度より2種目増え、14競技26種目となり、天皇杯得点はH26年度より93、50点の増であった。これは少年の部における入賞種目数が2種目増えたためである。（成年の入賞種目数H26、H27とも7種目） ・国体における少年の入賞種目数は、男子がH26よりも3種目の増であり、女子が1種目の減であった。成年における入賞種目数は男子で2種目の減に対し、女子で2種目の増であった。 ・中学生、高校生の全国大会での入賞種目数はH26年度より6種目増の58種目であった。これは高校生の全国高校総体と国体での入賞種目数が4種目増え、中学生の全国中学校大会での入賞数が2種目増えたためである。
--

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> ・H27年度の高校生の全国大会での入賞種目数を4種目増やすことができた。また全国高校総体で入賞のあった競技数は11競技で、これは過去10年間で最も多い数である。 ・オリンピック女子候補競技（ラグビー）の指定校において、全国選抜大会で優勝した。 ・世界に羽ばたくジュニア選手の育成・強化として、5名の選手のうち、2名がジュニアの国際大会に出場して優勝するなど、国際的に活躍した。 ・小・中・高校生等に、身体づくり、栄養、メンタルトレーニングなどのサポートを行い、スポーツに必要な知識を高めることができた。
--

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国体における成年の入賞種目数のアップ ・競技人口の減少 ・国体の天皇杯獲得点のアップ ・少年（中学・高校）の全体的な競技力アップ
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優秀な競技力のある成年選手が競技を続けられる環境整備が整っていない。 ・少子化による競技人口の減少。特に県西部や未普及種目。 ・地域をあげて競技への継続的なサポートが得られないため、後進が続かない。 ・大会で最高のパフォーマンスを出すためにスポーツ医・科学等の専門的なサポート等が十分でない。 ・指導者の不足や人事異動のため、中・高の一貫した指導体制が組みにくい。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年選手の受け皿となる企業等の確保。 ・競技スポーツ志向の低年齢化と、単一種目に特化してスポーツを行う傾向があること。 ・各競技団体が地域と一体となって競技の普及や強化を推進する必要がある。 ・トレーナーやスポーツ栄養士等の専門家による日々の身体づくりやメンタルトレーニングなどの多面的なサポートが必要である。 ・指導者の確保と一貫した指導体制が必要である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> ・企業等にスポーツに対する理解や関心を高めてもらう。 ・各競技団体が地域に根差した活動を推進し、競技人口裾野の拡大と地域の活性化を図ろうとする取り組みへの支援。 ・スポーツの普及振興から競技力の向上へとつながる、発掘・育成事業の検討。 ・スポーツトレーナーやスポーツ栄養士等のサポートスタッフの指導現場への派遣によるマルチサポートの継続的な指導。 ・国民体育大会へ支援コーチ、トレーナーを派遣する。 ・県外遠征や県外強豪校との招請合宿による選手強化と優秀な指導者の育成。 ・中体連、高体連、競技団体、県体協、県教育委員会が連携を取りながら、小・中・高と一貫した指導体制の確立や競技種目間での連携を図る。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--